



研究室だより、院生業績一覧、博士・修士論文題目、執筆者紹介

著者	同志社社会学研究学会
雑誌名	同志社社会学研究
号	8
ページ	71-77
発行年	2004-03-20
権利	同志社社会学研究学会
URL	http://doi.org/10.14988/pa.2017.0000011973

研究室だより

2003年度は、10年来の懸案事項であった文学部の改組・改編について、最終的に学部・学内で合意が得られ、文学部社会学科の4専攻と文化学科教育学専攻が独立し、2005年度から新町キャンパスにて社会学部が発足することになりました。これに伴い、2004年夏には、社会学専攻のスタッフは全員新町キャンパスに新設された溪水館に研究室を移転いたします。なお研究室の住所は変わりますが、電子メールや電話番号などは現在と同じものとなる予定です。

2004年10月からは、2名の新任の先生方を社会学専攻にお迎えすることになりました。社会学部新設にともなう社会学スタッフの増員枠2名のうちの1名として鳥根大学より小林久高先生を社会心理学・社会意識論担当の教授としてお迎えします。小林先生は、中範囲理論社会学、とりわけ政治意識や政治行動などの分野で、理論・実証双方にわたり緻密な研究を長年にわたって続けてこられた「旬の」社会学者です。また服部民夫先生の後任として、東京大学大学院人文社会系韓国朝鮮史文化専攻より板垣竜太先生を国際社会学担当の専任講師としてお迎えします。板垣先生は、1910年代から40年代の韓国社会を対象に、地に足のついた研究手法に基づく韓国社会研究の若き旗手の一人として注目されている研究者です。さらに2005年4月にはもう1名の社会学増員枠として新任の先生をお迎えする予定です。

なお、今年度は金香男さんと春木育美さんが博士論文を提出し博士（社会学）（同志社大学）の学位を授与されました。博士前期課程では、4名が修士論文を提出し、修士号を授与されました。入れ替わって後期課程に2名、前期課程に4名が入学します。（立木）

2003 年度 院生業績一覧

博士後期課程

栗本 修滋

【学会報告】

「自治体計画の変容」2003年5月24日 第54回関西社会学会大会（追手門学院大学）

【紀要論文】

「森林ボランティアにおける共同性」2004年3月『同志社社会学研究』第8号（同志社社会学研究会）

河口 充勇

【査読付論文】

「『回遊』型移住に関する一考察——香港を事例として」2004年3月『ソシオロジ』第149号67～83ページ（社会学研究会）

【学会報告】

「現代香港にみられる移動を前提とした生活様式」2003年5月25日 第54回関西社会学会大会（追手門学院大学）

小林 大祐

【著書（分担執筆）】

「日韓共催と世論の動向——W杯を通してみえてきたもの」（尾嶋史章との共著）2003年10月 牛木素吉郎・黒田勇編『ワールドカップのメディア学』（大修館書店）所収（199～222ページ）

【報告書】

「女性の階層帰属意識と規定構造に対する『郊外』的地域効果」2003年6月 尾嶋史章編『女性の社会進出と階層構造に関する計量社会学的研究』（平成13年～14年度科学研究補助金研究成果報告書）53～63ページ

【学会報告】

「階層帰属意識に対する地域特性の効果について」2003年5月25日 第54回関西社会学会大会（追手門学院大学）

「地域特性が階層帰属意識の規定構造にもたらす効果について」2003年10月13日 第76回日本社会学会大会（中央大学）

逢 軍

【査読付論文】

「城市農民工収入与就業矛盾及政策調整」(中国語)『経済学動態』2004年5月号(掲載決定)(中国社会科学院経済研究所)

森津 千尋

【著書(分担執筆)】

「メディアイベントとしての街頭応援——レッドデビル(赤い悪魔)の真実」2003年10月 牛木素吉郎・黒田勇編『ワールドカップのメディア学』(大修館書店)所収(123~146ページ)

【学会報告】

「メディアイベントとしての街頭応援」2003年5月24日 第54回関西社会学会大会(追手門学院大学)

「韓国における2002年W杯とメディア」2003年10月13日 日本マス・コミュニケーション学会大会(十文字学園女子大学)

吉岡 威史

【学会報告】

「ポスト青年期の歌謡曲——若者無気力化論の検討」2003年5月25日 第54回関西社会学会大会(追手門学院大学)

吉田 崇

【査読付論文】

「M字曲線が底上げした本当の意味——女性の『社会進出』再考」『家族社会学研究』第17巻1号(掲載決定)(日本家族社会学会)

【紀要論文】

「初期キャリアにおけるモビリティ——高度成長期の若者たち」2004年3月『評論・社会科学』第73号(同志社大学人文学会)

【報告書】

「女性のライフコースと職業経歴」『女性の社会進出と階層構造に関する計量社会学的研究』2003年6月 尾嶋史章編『女性の社会進出と階層構造に関する計量社会学的研究』(平成13年~14年度科学研究補助金研究成果報告書)21~51ページ

【学会報告】

「『主婦化』の進展とその変容——社会進出へのトレンド転換を再考する」2003年10月13日 第76回日本社会学会大会(中央大学)

宍戸 邦章

【査読付論文】

「高齢期における『共』活動の意味——『遊』縁派と『志』縁派の『老い方』の考察から」2004年5月
(掲載決定)『ソシオロジ』第150号(社会学研究会)

【報告書】

「高齢期パーソナル・ネットワークの比較研究」2003年12月『共生型まちづくりの研究——関西学研
都市調査第3次報告書』(同志社大学文学部社会学研究室)

【学会報告】

「高齢期における『道づれ』の編成」2003年5月10日 第28回地域社会学会大会(松山大学)

「高齢期社会的ネットワークにおける『小家族主義』と『関係的自立』」2003年5月25日 第54回関
西社会学会大会(追手門学院大学)

「『共』的セクターに参画する高齢者のライフスタイルと社会的ネットワーク」2003年9月6日 第13
回日本家族社会学会大会(大阪市立大学)

「高齢者の『共』的活動とライフスタイル変容」2003年10月13日 第76回日本社会学会大会(中央
大学)

【講演】

「社会的ネットワークの地域間比較」2003年10月28日 下京区社会福祉協議会「下京区稚松学区高齢
者問題シンポジウム」(ひと・まち交流館京都)

黒宮亜希子

【学会報告】

「ファミリー・フレンドリーな企業環境が従業員の両立志向に与える影響について」(立木茂雄との共同
報告)2003年5月25日 第54回関西社会学会大会(追手門学院大学)

「企業のファミリー・フレンドリー施策が従業員の仕事と子育ての両立志向に与える影響について」
2003年10月12日 第76回日本社会学会大会(中央大学)

越智 祐子

【紀要論文】

「行政による市民活動支援事業の業績測定——社会生活基本調査における『社会的活動』の経済的評価
を用いて」2004年3月『同志社社会学研究』第8号(同志社社会学研究会)

博士前期課程

田中 志敬

【紀要論文】

「新住民流入と地域共同管理の模索——京都市都心部のマンション建設の事例研究より」2004年3月
『同志社社会学研究』第8号（同志社社会学研究学会）

吉本顕太郎

【紀要論文】

「キャンププログラムにおける場の構造と参加者の自己の変容——不登校経験者のキャンプリーダー体験の分析を通して」2004年3月『同志社社会学研究』第8号（同志社社会学研究学会）

【報告書】

『不登校経験者のさらなる自立のために何ができるか——無学年制自然体験キャンプにおけるリーダー体験の効果を追証する』（立木茂雄との共著）2004年3月 2002～2004年度独立行政法人福祉医療機構（子育て支援基金）助成金研究成果報告書

2003 年度 博士論文題目

氏 名	論 文 題 名
金 香 男	韓国における高齢者扶養の変化と家族関係に関する研究 ——慶尚北道の農村と都市の事例研究を中心に——
春 木 育 美	韓国における国会議員の誕生過程 ——ポリティカル・リクルートメントと集票構造——

2003 年度 修士論文題目

真 下 裕 也	テレビメディアとお笑い番組・その関係と変容についての研究
岡 崎 康 祐	戦後世代の私生活化、その質的変容に関する研究
田 中 志 敬	共同住宅事業主の特性からみる土地利用の共同性に関する研究 ——京都市都心部田の字型北西部を事例として——
吉 本 顕太郎	社会的相互作用を通じた青年の行為パターンの変容と内面的な変容について ——不登校経験者のキャンプリーダー体験の観察・分析を通して——

執筆者紹介

森川眞規雄（もりかわ まきお）

同志社大学文学部教授

社会人類学

mmorikaw@mail.doshisha.ac.jp

栗本 修滋（くりもと しゅうじ）

同志社大学大学院文学研究科社会学専攻 博士後期課程／栗本技術士事務所

環境社会学

MXG02362@nifty.ne.jp

越智 祐子（おち ゆうこ）

同志社大学大学院文学研究科社会学専攻 博士後期課程

福祉社会学

eld3803@mail2.doshisha.ac.jp

田中 志敬（たなか ゆきたか）

同志社大学大学院文学研究科社会学専攻 博士前期課程

地域社会学、都市社会学

ele3802@mail2.doshisha.ac.jp

吉本顕太郎（よしもと けんたろう）

同志社大学大学院文学研究科社会学専攻 博士前期課程

社会学的自己論

（執筆順、所属は2004年3月31日現在）